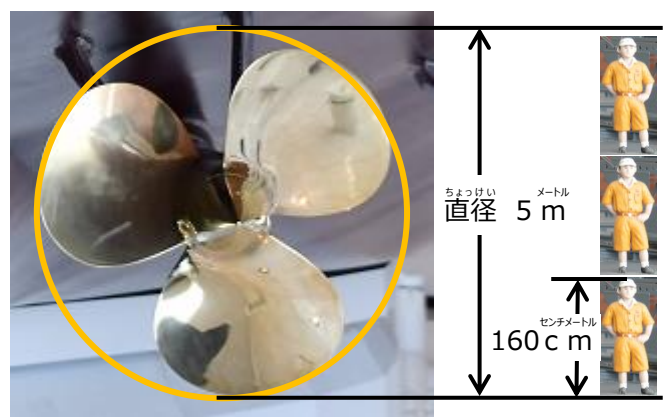
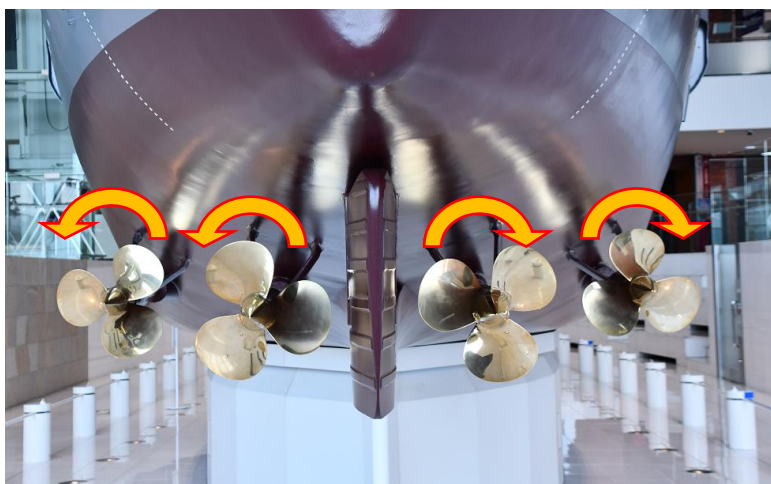


「大和」を海上で進めるために重要な部分です

海の上では水の中に隠れている、プロペラと舵に注目しましょう！

プロペラ

スクリーブプロペラともいい、回転して水の流れを作り出し、船が進む力を得る装置です。



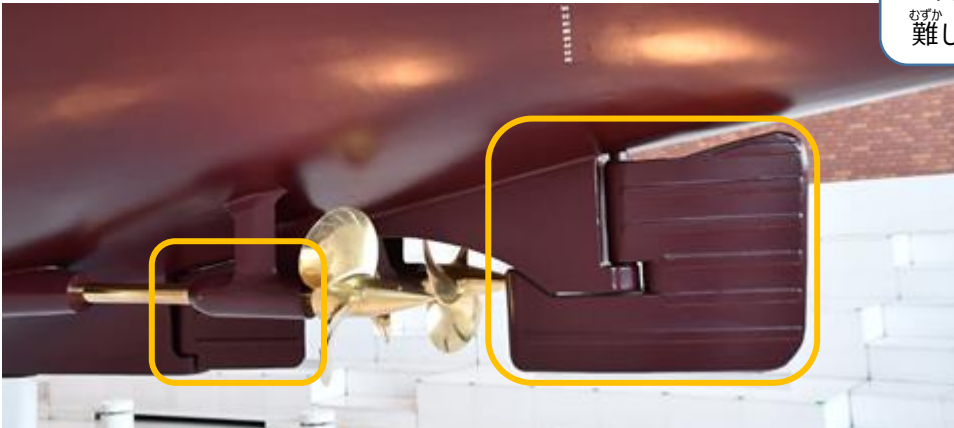
プロペラは3枚翼。直径は当時最大の5mで、身長160cmの乗組員と比べると、3人分より大きいのです！

「大和」には、プロペラの軸が4本ありました。右の2本と左の2本はそれぞれ外回りに回ることによって前進します。

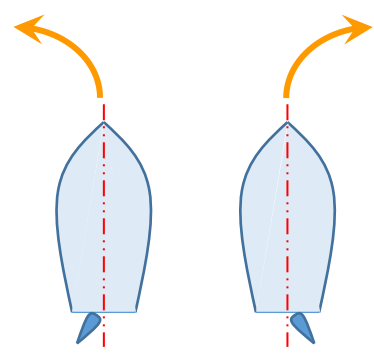
プロペラは、おおまかな形に成型されたマンガン青銅（真鍮）という金属でできた鑄物を、職人の手によって表面をなめらかに磨いて仕上げました。

「大和」のプロペラは、鑄物づくりで最高の技術をもっていた広海軍工廠（呉市広地区）で作られました。

舵 船の進む方向を保ったり、変えたりするための装置です。



みずの上だから、行きたい方向に船を進めるのはむずかしいんだよね。



副舵 主舵の約3分の1の大きさ

主舵 面積が39.9 m²、重さが70t

とりかじ 取舵

おもかじ 面舵

舵を左
船も左へ

舵を右
船も右へ

直列2枚舵

「大和」以前の戦艦では、舵を2枚備える際、左右に並べていました。しかし、攻撃を受けたとき、両舵同時に被害を受けやすかったことから、「大和」では約15m離して2枚の舵を前後に並べました。こうすることにより、2枚同時に被害を受けにくくなりました。

2枚の舵を使うことで、大きな「大和」でも簡単に旋回する（進む向きを変える）ことができました。

「大和」が速力26ノット（時速約48km）で進んでいる時、舵を35度切ると、約600m進んだところで、やっと90度向きを変えることができました。